

善因善果 悪因悪果

こんにちは、斎藤友蔵と申します。

本日は「善因善果」と「悪因悪果」について、お話をさせていただきます。

善い原因は善い結果を、悪い原因は悪い結果を、と書きます。

最初に、お釈迦さまの言葉を1つご紹介します。中に出てくる「果報」とは「以前に行なった行為により、のちに報いとして受ける結果」のことです。

悪人も、その悪の果報が生じない間は、幸福を見る。しかし悪の果報が生じる時、悪人は禍(わざわい)を見る。

善人も、その善の果報が生じない間は、悪苦・悪い苦しみ、を見る。しかし善の果報が生ずる時、善人は幸福を見る。

この詩は、自分を大切にしたいなら、悪い因・原因を作ってはいけない、と言っています。「悪」とは、一言で言えば、自分を苦しみに導くものです。悪い原因は悪い結果へとつながります。因果応報です。

逆に、良い因を結べば、良い結果を得られます。ちなみに因果には、前世からの因が現世に現れ、現世の因がまた来世に現れることも含まれます。

そしてさらに、この因果に、間接的な原因を含めたものが因縁です。

突然ですが、梅の花はなぜ春先にきちんと咲くことができるのでしょうか。

答えは「準備をしていたから」です。良い結果を得ようと思ったら、何よりも大切なのは準備。つまり原因をつくることです。もし梅が、冬からではなく、春になってから準備を始めていたたら、間に合いません。

そしてもう一つの答えが「暖かい春風が吹いたから」です。

寒い冬のままであれば、花を咲かすことはできません。

梅のように咲く準備をして、物事の原因を作ることを「因」といいます。そして春風のようなチャンスが「縁」です。両方の言葉が合わさって「因縁」となります。

現代では、「因縁をつけられた」など、否定的な意味で使われることが多いですが、本来は、ものごとの道理を表す大切な仏教用語です。

因果、因縁と関連する言葉に「縁起」があります。

縁起とは「全てのものが関係しあって成り立っている」ということです。すべてのものはそれだけで存在はせず、因と縁によって成立していますよね。

まず日頃から準備してあらかじめ良い原因を作っておくことが大切です。チャンスが来てから、あわてて準備していたのでは間に合いません。

そして、いい縁が巡ってきたときに、それを確実につかむこと。これは自分が縁に働きかける、縁を起こすことでもあります。そうすれば良い結果を出すことができるでしょう。

世知辛い世の中にあっても私たちは、悪因には悪の果報が、善因には善の果報が生ずることを信じ、お釈迦さまの次のような警告を、常に心していく必要があります。

『愚者は、悪の結果が現れるまでは、それを蜜の如く思い、現れてはじめて苦を感じる』

愚か者は、自分の行いが悪いことだと思わず続けていて、悪だと分かった時はじめて苦しみを感じるだろう、というのです。

良い原因を造り、良い縁をつかんで、そして自分もその縁に働きかけて、良い結果を出すことを心掛けていきましょう。

以前、紙漉きを生業にしている友人から、自分の漉いた紙に、ダライ・ラマ法王さまのメッセージを書いてもらいたいと頼まれたことがあり、お伝えしたところ、チベット語で、

「あなたの行動がいつも善業でありますように」と書いていただきました。

法王さまは何も言わず、五枚の紙にメッセージを書いて下さり大変驚きました。残りの4枚は、欲しいといわれる方々に差し上げました。皆さま驚嘆してお喜びになりました。